

シリーズ第12話

慢性硬膜下血腫にご注意!

最近ようすがおかしい…、ボケちゃったかも…と考える前に、最近頭を打ったことはありませんか？

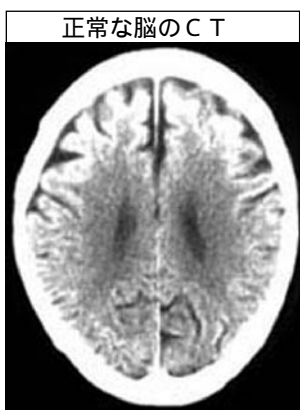
脳神経外科の病気というとき、激な意識障害を伴ったり、麻痺や頭痛、痙攣といった激的な症状をイメージされるようですが、慢性硬膜下血腫のように徐々に進行する病気もあります。

最近めつきり動作や受け答えが緩慢になった、何だかようすがおかしいけど年のせいかも…と思われる方の中には、頭を打ったことが原因で頭の中にジワジワと出血し、数週間から数カ月後になって慢性硬膜下血腫を起こしている場合があります。注意が必要です。

頭を打った直後の変化であれば多くの方が気づくことができます。最近めつきり動作や受け答えが緩慢になった、何だかようすがおかしいけど年のせいかも…と思われる方の中には、頭を打ったことが原因で頭の中にジワジワと出血し、数週間から数カ月後になって慢性硬膜下血腫を起こしている場合があります。注意が必要です。

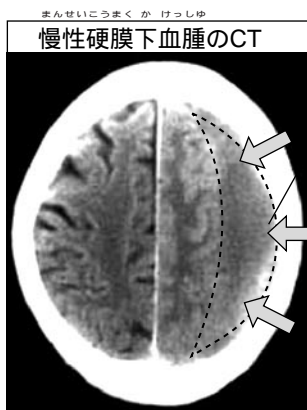


新城市民病院
脳神経外科
副院長 村木正明



正常な脳のCT

脳の状態はCTやMRIといった画像検査をしてみないことにはわからないことが多いですが、あれこれ悩まず、お気軽に脳神経外科を受診していただきたいと思います。



慢性硬膜下血腫のCT

三日月様に黒く見えるところが溜まった出血です

脳は頭蓋骨側から中心に向けて硬膜、くも膜、軟膜の3層の膜に覆われています。慢性硬膜下血腫は、硬膜の内側に出血が起き溜まった状態で、血液の量が多くなると次第に脳を圧迫して思考能力の低下、歩行障害などさまざまな症状がでてきます。